

12月1日は世界エイズデー

## 2022年世界エイズデーキャンペーン

テーマ「このまちで暮らしている。私もあなたも。12月1日は世界エイズデー」

2022年は、岐阜市内の中学、高校、大学、専門学校8校がレッドリボンフラッグ作成に参加されました。各校それぞれの思いが込められたフラッグとメッセージをご紹介します。（メッセージは紙面の都合により編集しております。）

レッドリボンフラッグは、11月16日～12月10日まで、神田町5丁目の交差点付近に展示しています。



### 〈岐阜市医師会看護学校〉

私たちは、医療従事者を志す一員として、エイズの予防やエイズとともに生きる人々への偏見や差別を解消し、人権を尊重することに対して強い思いを持っています。

そこで、レッドリボンを作成するにあたりエイズで偏見を受けている人たちが不当な差別を受けることなく、生き生きと社会で暮らすことができるよう思いを込めて作りました。

### 〈岐阜大学 ピアカウンセリング同好会 シグマソサエティ〉

「このまちで暮らしている。私もあなたも。12月1日は世界エイズデー」というキャンペーンテーマをもとに、エイズに関する正しい知識を持って、当事者としてエイズとともに生きる人々を差別しない明るい未来を築いていこうという思いを込めて、このフラッグを作成しました。





### 〈岐阜保健大学 看護学部〉

私達が今回大きくとりあげた「U=U」というメッセージには、効果的な HIV 治療を受けて血液中の HIV 量が検出限界未満のレベルに継続的に抑えられている HIV 陽性者からは、性行為で他の人に HIV が感染することはない、ということの意味しています。

昨年も、このレッドリボンフラッグ、世界エイズデーキャンペーンに参加させて頂きましたが、私達の知識もレベルアップし、「U=U」という言葉を学び、この作品を作りました。

多くの方がこの U=U のメッセージを知ることによって、自分と HIV との付き合いかた、パートナーとの関係をより良いものにし、さらに社会全体の HIV への差別や偏見をなくしていけたらと思います。

### 〈済美高等学校〉

私たちは、エイズがどのような感染症で人体にどのような影響を及ぼすのかこのフラッグ作りを通して知りました。このフラッグを見た人が「少しでも明るい気持ちになれるように」という思いを込めて、お花や色をたくさん使いました。リボンには、エイズ患者の方に向けたメッセージが書かれています。多くの人にエイズがどんな感染症なのか知ってもらいたい、エイズで苦しむ人が少しでもはやくよくなりますようにという応援の言葉や願いが込められています。





〈厚見学園 厚見小中学校〉

エイズに対する差別や偏見がなく、この町でみんなが安心して笑顔で暮らせることを願い、笑顔あふれるレッドリボンフラッグにしました。

厚見中学校の生徒がデザインし、色付けをしたフラッグに、厚見小学校の児童がレッドリボンを付け、厚見小中学校の合同作品となりました。

〈岐阜聖徳学園大学附属中学校〉

エイズの人たちに対して、差別や偏見をなくして、この世界中の人々、全員が平等に生きられるように、平和の象徴として中心に白い鳩を描き入れました。今年のフラッグを通して1人でも多くの人々がエイズについて関心を持ち、正しい知識や理解を持ってくれることを願っています。





#### 〈岐阜市立看護専門学校〉

一人でも多くの人にエイズについて知ってもらいたいという思いで作成しました。一番上に「AIDSDAY」を描き、2つのハート、カラフルなボンボンで明るくし、リボンの真ん中にはメッセージを書きました。小さなりボン1つ1つで作られたレッドリボンとハートの様に、1人1人がエイズを知り、理解を深めることで差別や偏見がなくなり、みんなが平等に安心して暮らせる世の中になると良いなと思います。

#### 〈岐阜市立女子短期大学〉

今年のテーマにもあるように、「私もあなたも」というキーワードから、一人一人がエイズについて知識を持って理解を深められるようにという気持ちを込めました。レッドリボンは、「わたしはエイズに関して偏見を持っていない、エイズに苦しむ人々への理解と支援をする」というメッセージです。このフラッグアートは、人々がレッドリボンをもっているようなイメージで作成しました。エイズ対策を行う専門の国際機関である国連合同エイズ計画（UNAIDS）では、2030年までにエイズ流行終結を宣言しており、国際的にさまざまな啓発・支援活動が行われています。しかし、いまだエイズは死に至る病という間違った認識は残っており、その認識がエイズへの偏見に繋がっています。エイズについての差別・偏見、エイズのない世界を願い、STOPAIDSの文字をデザインしました。啓発作品の制作・展示により、ひとりでも多くの人がエイズのことを自分事として捉え、理解を深めるきっかけになれば嬉しいです。

